



Informatica® Cloud Application Integration  
September 2022

# Kafka コネクタガイド

Informatica Cloud Application Integration Kafka コネクタガイド  
September 2022

© 著作権 Informatica LLC 2019, 2022

発行日: 2022-12-15

# 目次

<b>序文</b> .....	4
<b>第 1 章 : Kafka コネクタの概要</b> .....	5
Kafka の概要. ....	5
Kafka コネクタの概要および実装. ....	5
<b>第 2 章 : Kafka 接続およびプロセス</b> .....	6
Kafka 接続の概要. ....	6
Kafka ブローカによる高可用性. ....	6
Kafka パーティションの設定. ....	7
基本接続プロパティ. ....	8
Kafka 接続のプロパティ. ....	8
Kafka イベントソースプロパティ. ....	11
Kafka イベントターゲットプロパティ. ....	14
Kafka クライアントの Kerberos 認証の設定. ....	15
Kafka プロセスの作成. ....	15
<b>索引</b> .....	17

# 序文

『*Kafka* コネクタガイド』で、Kafka 接続を設定および使用方法を確認します。

このガイドは、Kafka メッセージストリーミングプラットフォームに関する知識があり、アプリケーションの統合で接続とプロセスを作成する方法を理解していることを前提としています。

# 第 1 章

## Kafka コネクタの概要

この章では、以下の項目について説明します。

- [Kafka の概要, 5 ページ](#)
- [Kafka コネクタの概要および実装, 5 ページ](#)

### Kafka の概要

Kafka は、高速かつ拡張可能で堅牢な分散型のパブリッシュ/サブスクライブメッセージングシステムです。

Kafka はトピックの形式でメッセージを格納します。コンシューマがトピックからデータを読み取ります。プロデューサがトピックにデータを書き込みます。Kafka のトピックは、パーティション化されて複数のノードにレプリケートされるため、分散処理が可能です。

Kafka コンシューマおよびプロデューサは、相互にデータを直接やり取りすることはありません。Kafka ブローカがコンシューマとプロデューサの仲介者として機能し、データを配布します。Kafka クラスタは複数のブローカで構成される場合があります。Kafka は ZooKeeper を使用して、Kafka クラスタを管理します。

### Kafka コネクタの概要および実装

Kafka コネクタを使用して、次のタスクを実行できます。

- Kafka 接続、Kafka プロデューサ、Kafka コンシューマの設定。
- 特定のトピックに関するメッセージのリスンおよび読み取り。
- 特定のトピックへのメッセージの書き込み。

Kafka コネクタは、Camel イベントリスナを使用して実装されます。Kafka ストリームで Kafka メッセージの受信などのイベントが発生したときに、Kafka に接続するプロセスをトリガできます。

## 第 2 章

# Kafka 接続およびプロセス

この章では、以下の項目について説明します。

- [Kafka 接続の概要, 6 ページ](#)
- [Kafka ブローカによる高可用性, 6 ページ](#)
- [Kafka パーティションの設定, 7 ページ](#)
- [基本接続プロパティ, 8 ページ](#)
- [Kafka 接続のプロパティ, 8 ページ](#)
- [Kafka イベントソースプロパティ, 11 ページ](#)
- [Kafka イベントターゲットプロパティ, 14 ページ](#)
- [Kafka クライアントの Kerberos 認証の設定, 15 ページ](#)
- [Kafka プロセスの作成, 15 ページ](#)

## Kafka 接続の概要

Kafka 接続を使用して、Kafka ストリームに接続し、トピックとの間でデータの読み取りおよび書き込みを行います。

別の Kafka ブローカを追加して、Kafka クラスタを形成し、Kafka 接続を作成することもできます。Kafka 接続を使用して Apache Kafka ブローカにアクセスし、データの読み取りと書き込みを行います。

Kafka 接続を作成した後に、接続を検証および保存します。

次に、Kafka 接続をパブリッシュして、**【メタデータ】** タブをクリックし、接続用に生成されたプロセスオブジェクトを表示できます。

Kafka 接続の作成に関するビデオを表示し、サンプルの Kafka 接続をダウンロードするには、次のコミュニティ記事を参照してください。

<https://knowledge.informatica.com/s/article/DOC-18183>

## Kafka ブローカによる高可用性

Kafka ブローカのリストを指定して、Kafka クラスタを形成し、高可用性を確保できます。

Kafka ブローカ接続文字列を<host\_name>:<port\_number>または<IP\_address>:<port\_number>の形式で指定できます。ここで指定する、ホスト、IP アドレス、およびポートはブローカが実行されている Kafka サーバーのもので

す。1つのブローカがダウンしているときに他の Kafka ブローカを介して接続するためには、次の形式で複数のホストを指定できます。

hostname1:port1,hostname2:port2,hostname3:port3

Kafka クラスタ内のブローカがダウンした場合、クラスタ内の他のアクティブなブローカは引き続きトピックをリスンします。

## Kafka パーティションの設定

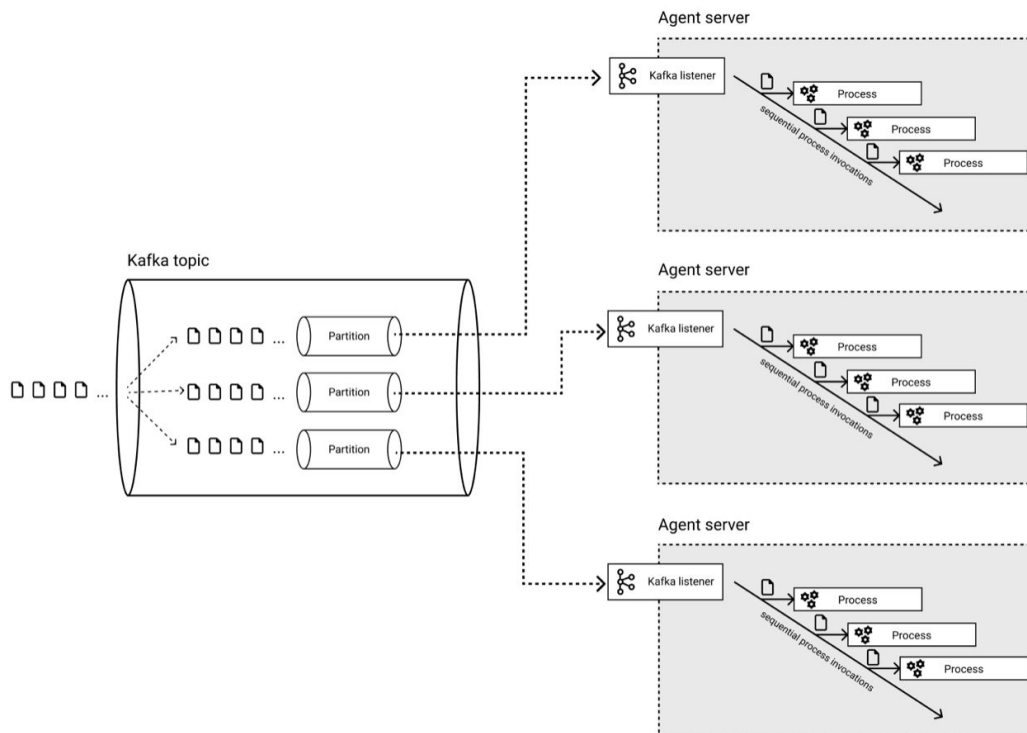
パーティションを使用してメッセージを並列処理し、メッセージの同時消費を有効にすることができます。

Secure Agent クラスタでは、Kafka コンシューマは1つのノードでのみアクティブになります。ただし、同じ Kafka リスナが Secure Agent グループで実行されている場合は、グループ内のすべてのノードでメッセージが並行して処理されます。Kafka は、クライアントインスタンス間で重複することなくメッセージを分散します。

Secure Agent グループで実行される Kafka パーティションと Kafka リスナは、Secure Agent ノード間で負荷を分散します。また、グループにパーティションと Secure Agent をさらに追加することで、より多くのデータを処理できるように拡張します。これにより、Kafka のメッセージ処理スループットが向上します。

パーティションの数は、クライアントの同時実行コンシューマの数と等しくなければなりません。パーティションの数がコンシューマの数よりも少ない場合、一部のコンシューマインスタンスは処理するメッセージを受信しません。パーティションの数がコンシューマの数より多い場合、一部のコンシューマインスタンスが複数のパーティションからのメッセージを処理します。

次の図は、Kafka リスナが Secure Agent グループのパーティションとどのように連携するかを示しています。



ユーザーは、メッセージがパーティション間で均等に分散されるようにして、グループ内のすべての Secure Agent に均等に負荷が割り当てられるようにする必要があります。これにより、スループットが最大になり、Secure Agent にかかる負荷も均等になります。

パーティショニングに関する Kafka ドキュメントの詳細については、<https://kafka.apache.org/documentation/>を参照してください。

## 基本接続プロパティ

次の表に、接続の作成ページの【プロパティ】タブで設定可能な基本プロパティを示します。

プロパティ	説明
名前	必須。Process Designer での識別に使用される、Kafka 接続の一意の名前。名前はアルファベットで始まり、アルファベット、数値、ハイフン (-) のみを含めることができます。
場所	オプション。接続を保存するプロジェクトまたはフォルダの場所。【参照】をクリックして場所を選択します。 [Explore (参照)] ページが現在アクティブになっていて、プロジェクトまたはフォルダが選択されている場合、接続のデフォルトの場所はその選択されているプロジェクトまたはフォルダです。そうでない場合、デフォルトの場所は直近で保存されたアセットの場所です。
説明	オプション。接続の説明。
タイプ	必須。接続またはサービスコネクタに使用する接続のタイプ。 [Kafka] を選択します。
実行日時	必須。接続のランタイム環境。Secure Agent グループまたは Secure Agent マシン上で接続を実行できます。
接続テスト	Kafka コネクタではサポートされていません。
OData 対応	Kafka コネクタではサポートされていません。

基本プロパティを設定した後、次のプロパティも定義する必要があります。

- Kafka 接続タイプに適用できるプロパティ
- Kafka 接続のイベントソースプロパティとイベントターゲットプロパティ

## Kafka 接続のプロパティ

接続タイプに【Kafka】を選択すると、接続の作成ページの【プロパティ】タブで、Kafka 固有の接続プロパティを設定できます。

### 接続設定

接続先となる Kafka ホストおよび Kafka ポートを指定する必要があります。SSL 認証および SASL 認証を有効化することもできます。

次の表では、**[接続設定]** セクションで設定する必要がある Kafka 接続のプロパティを定義しています。

プロパティ	説明
Kafka ホスト	必須。Secure Agent が TCP 接続を使用して接続する必要があるプライマリ Kafka ホスト。
Kafka ポート	必須。Secure Agent が TCP 接続を使用して接続する必要があるプライマリ Kafka のポート番号。
追加の Kafka ブローカ	<p>Secure Agent が TCP 接続を使用して接続する必要がある Kafka ブローカのカンマ区切りリスト。</p> <p>Kafka ブローカが実行されているシステムのホスト名または IP アドレスと、スペースを含まないポート番号を次の形式で入力します。</p> <p>&lt;host_name&gt;:&lt;port_number&gt;または&lt;IP_address&gt;:&lt;port_number&gt;</p> <p>例: CAI1A:9090,CAI2A:9091,10.75.167.66:9092,10.75.167.67:9093</p> <p><b>注:</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>- SSL を介して Kafka ブローカに接続する場合は、ホスト名に完全修飾ドメイン名を指定する必要があります。指定されていない場合、接続テストは SSL ハンドシェイクエラーで失敗します。</li><li>- SSL および SASL を介して Kafka ブローカに接続する場合は、すべてのブローカに同じ SSL および SASL 設定があることを確認する必要があります。</li><li>- 接続をテストするときは、Kafka サーバーがすべてのブローカで稼働していることを確認する必要があります。稼働していないと、接続テストが失敗します。</li><li>- IP アドレスごとに一意のホスト名が必要です。これに従っていない場合、エラーが発生します。</li></ul>
その他の属性	<p>オプション。Kafka ブローカに接続するための一般的な Apache Camel 設定のプロパティのリスト。</p> <p>プロパティは、キーと値のペアで指定します。複数のプロパティは、スペースを入れずにアンパサンド文字 (&amp;) で区切ります。</p> <p>例えば、次のフレーズを入力して、要求を行うアプリケーションのクライアント ID と、接続に繰り返し失敗したブローカに再接続するときに待機する最大時間（ミリ秒単位）を指定します。</p> <p>clientId=client123&amp;reconnectBackoffMaxMs=900</p> <p>Camel 設定で直接設定できない Kafka コンシューマまたは Kafka プロデューサに追加のプロパティを設定する場合は、プロパティの前にプレフィックス additionalProperties を付けます。</p> <p>例: additionalProperties.transactional.id=12345&amp;additionalProperties.schema.registry.url=http://localhost:8811/avro</p> <p>指定できるプロパティの詳細については、Apache Camel のドキュメントを参照してください。</p>
SSL の使用	<p>オプション。SSL 認証を使用する必要があるかどうかを指定します。</p> <p>デフォルトは <b>[いいえ]</b> です。</p>
SASL の使用	<p>オプション。SASL 認証を使用する必要があるかどうかを指定します。</p> <p>Kafka クライアントの Kerberos 認証を設定するには、<b>[はい]</b> を選択します。</p> <p>デフォルトは <b>[いいえ]</b> です。</p>

## SSL 設定

SSL 認証を設定し、Kafka プロデューサ、Kafka コンシューマ、および Kafka クラスタ間でデータを暗号化して安全に転送できます。SSL 認証を設定するときは、認証局が証明書に署名して Kafka クライアントに発行します。Kafka ブローカはその証明書を使用して、クライアントの身元を確認します。

SSL 認証を有効にすると、**[SSL 設定]** セクションで次の認証プロパティを設定する必要があります。

プロパティ	説明
SSL トラストストアの場所	Kafka ブローカとの安全な双方向通信を確立するための SSL 証明書を含む、Secure Agent マシン上のトラストストアファイルの絶対パスとファイル名。 例: C:/SSL/Certs_208/icrt-truststore.jks
SSL トラストストアパスワード	SSL 証明書を含むトラストストアファイルのパスワード。
SSL キーストア場所	Kafka ブローカとの安全な双方向通信を確立するために必要なキーと証明書を含む、Secure Agent マシン上のキーストアファイルの絶対パスとファイル名。 例: C:/SSL/Keys/icrt-keystore.jks
SSL キーストアパスワード	通信を安全に行うために必要なキーストアファイルのパスワード。
SSL キーパスワード	クライアントの SSL キーパスワード。

## SASL 設定

Kafka ブローカが Kafka プロデューサおよび Kafka コンシューマを認証できるように、SASL 認証を設定できます。Kafka は、Java Authentication and Authorization Service (JAAS) を SASL 認証に使用します。SASL 認証を有効にするには、Kafka ブローカが認証に使用する必要がある SASL メカニズムを指定する必要があります。また、指定した SASL メカニズムの値に基づき、Kafka ブローカが認証に使用する必要があるフォーマットされた JAAS 設定も指定する必要があります。

必要な Kerberos 構成ファイルを Secure Agent マシンに配置し、Kafka 接続に必要な JAAS 設定を指定することで、Kafka クライアントの Kerberos 認証を設定できます。JAAS 設定により、Kafka ブローカが Kafka クライアントを認証するために使用する必要があるキータブとプリンシパルの詳細を定義します。

**注:** Kafka クラスタが実行されている Kerberos サーバーとプロセスサーバーは同じタイムゾーンを使用する必要があります。使用していない場合、メッセージの生成時にエラーが発生します。

SASL 認証を有効にすると、**【SASL 設定】** セクションで次の認証プロパティを設定する必要があります。

プロパティ	説明
SASL メカニ ズム	Kafka ブローカが Kafka プロデューサおよび Kafka コンシューマの認証に使用する必要がある SASL メカニズム。 次のいずれかの値を入力します。 - PLAIN。この値を使用して、Kafka クライアントのプレーン SASL 認証を設定します。 - GSSAPI。この値を使用して、Kafka クライアントの Kerberos 認証を設定します。 デフォルトは PLAIN です。
Jaas 設 定	Kafka ブローカが Kafka プロデューサおよび Kafka コンシューマの認証に使用する必要があるフォーマットされた JAAS 接続。 PLAIN SASL メカニズムを使用するには、次の例に示すように、JAAS 設定で Kafka に接続するためのユーザー名とパスワードを指定する必要があります。 <code>org.apache.kafka.common.security.plain.PlainLoginModule required username="&lt;value&gt;" password="&lt;value&gt;";</code> Kafka クライアントの Kerberos 認証を設定するには、次の例に示すように、JAAS 設定でキータブとプリンシパルの詳細を指定する必要があります。 <code>com.sun.security.auth.module.Krb5LoginModule required useKeyTab=true storeKey=true keyTab="&lt;path and file name of the keytab file on the Secure Agent machine&gt;" serviceName="kafka" principal="kafka/&lt;host_name&gt;";</code>

## Kafka イベントソースプロパティ

Kafka イベントソースを作成するときは、Kafka コンシューマを作成して Kafka メッセージを読み取ります。Kafka メッセージを読み取るプロセスで、各 Kafka イベントソースを使用できます。

作成する各 Kafka 接続について、1 つまたは複数のイベントソースを追加できます。イベントソースは、指定した Kafka トピックの新しいメッセージをリスンまたは監視する開始イベントとして機能します。Kafka 接続のイベントソースの定義後は、Secure Agent 上でのみ、接続をパブリッシュできます。その後、プロセス内のイベントソースにアクセスし、イベントソースダウンストリームが生成したプロセスオブジェクトを利用する目的で、プロセスを Secure Agent 上でのみデプロイできます。

Kafka 接続のイベントソースを作成するには、**【イベントソース】** タブで **【イベントソースの追加】** をクリックします。イベントソースタイプで **【Kafka コンシューマ】** を選択します。

次の表に、設定できる基本的なイベントソースプロパティを示します。

プロパティ	説明
名前	必須。Process Designer に表示されるイベントソースの名前。この名前は、この接続に一意である必要があります。
説明	オプション。Process Designer に表示される Kafka イベントソースの説明。
有効	このイベントソースをパブリッシュ後即時に使用できるようにするには、 <b>【はい】</b> を選択します。 このイベントソースを使用準備ができるまで無効にするには、 <b>【いいえ】</b> を選択します。 デフォルトは <b>【はい】</b> です。

次の表に、設定できる Kafka イベントソースプロパティを示します。

イベントソースプロパティ	説明
負荷分散を有効化	<p>必須。負荷分散のため、グループ内のすべての Secure Agent または選択した Secure Agent のどちらに対して接続のデプロイを行う必要があるかを決定します。このオプションは、プロセスサーバーが Secure Agent のクラスタ設定を使用する場合にのみ有効にしてください。このオプションを有効にすると、プロセスサーバーは、負荷分散を確実にを行うため、Secure Agent クラスタ内の複数の Secure Agent マシン間にルートを分散します。</p> <p>デフォルトは <b>【いいえ】</b> です。</p> <p>注: 接続をパブリッシュしてプロセスを実行した後、負荷分散のオプションを切り替えると、重複するメッセージが表示される場合があります。この問題を回避するため、負荷分散用の新しい接続を作成することをお勧めします。</p>
トピック	必須。メッセージの読み取り元となる Kafka トピックの名前。
グループ ID	必須。Kafka コンシューマが属するグループの ID。

イベントソースプロパティ	説明
コンテンツ形式	<p>必須。メッセージを読み取る形式。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- TEXT</li> <li>- XML</li> <li>- JSON</li> </ul> <p>デフォルトは [TEXT] です。</p>
その他の属性	<p>オプション。Kafka コンシューマ用の追加の Apache Camel 設定のプロパティのリスト。</p> <p>プロパティは、キーと値のペアで指定します。複数のプロパティは、スペースを入れずにアンパサンド文字 (&amp;) で区切ります。</p> <p>例えば、次のフレーズを入力して、Kafka サーバーに接続できるコンシューマの数と、クライアントが要求の応答を待機する最大時間を指定します。</p> <p><code>consumerStreams=1&amp;consumerRequestTimeoutMs=30000</code></p> <p><b>【イベントソース】 タブと 【プロパティ】 タブの両方でコンシューマ固有の接続プロパティを設定すると、【イベントソース】 タブの接続プロパティが優先されます。</b></p> <p>スループットを向上し、より多くのプロセスを同時に呼び出すため、次のコンシューマ固有のプロパティを設定できます。</p> <p><code>consumersCount</code>.Kafka サーバーに接続するコンシューマの数を指定します。デフォルトは 1 です。</p> <p><code>consumerStreams</code>.あるコンシューマについて、同時実行が可能なコンシューマの数を指定します。デフォルトは 10 です。</p> <p><code>maxPollRecords</code>.ブローカからのメッセージをポーリングするための 1 回の呼び出しで返すコンシューマあたりのレコードの最大数を指定します。デフォルトは 500 です。</p> <p><code>maxPollIntervalMs</code>.コンシューマグループ管理を使用する場合の <code>poll()</code> の呼び出し間の最大遅延を指定します。デフォルトは 300000 ミリ秒 (5 分) です。</p> <p><code>partitionAssignor</code>.グループ管理を使用している場合に、クライアントがコンシューマインスタンス間でパーティションの所有権を分散するために使用する、パーティション割り当てストラテジのクラス名を指定します。デフォルトは <code>org.apache.kafka.clients.consumer.RoundRobinAssignor</code> です。</p> <p>例えば、次のフレーズを入力してスループットを向上します。</p> <p><code>consumersCount=20&amp;consumerStreams=20&amp;maxPollRecords=100&amp;maxPollIntervalMs=480000&amp;partitionAssignor=org.apache.kafka.clients.consumer.RoundRobinAssignor</code></p> <p><b>注:</b> Secure Agent マシンにある <code>aeEngineConfig.xml</code>.mustache ファイルで定義されている <code>PoolSize</code> および <code>MaxPoolSize</code> は、ここで指定する <code>consumersCount</code> および <code>consumerStreams</code> より大きい値でなければなりません。</p> <p>指定できるプロパティの詳細については、Apache Camel のドキュメントを参照してください。</p>

各イベントソースのステータスは、パブリッシュされた接続で表示できます。イベントソースのステータスが [停止] の場合は、接続を再パブリッシュしてイベントソースを再開できます。接続を再パブリッシュすると、接続内のすべてのイベントソースがデフォルトで開始されます。

リスナベース接続でのイベントソースの開始と停止の詳細については、「*Cloud アプリケーション統合と Monitor のためのコネクタ*」を参照してください。

# Kafka イベントターゲットプロパティ

Kafka イベントターゲットを作成するときは、Kafka プロデューサを作成して Kafka メッセージを書き込みます。Kafka メッセージを書き込むプロセスで、各 Kafka イベントターゲットを使用できます。

作成する各 Kafka 接続について、イベントターゲットがプロセスから呼び出されるとき、またはメッセージの書き込みのための操作を指定する、1 つ以上のイベントターゲットを含めることができます。例えば、プロセスオブジェクトから読み取るイベントターゲットを定義し、Kafka トピックに書き込みます。

Kafka 接続のイベントターゲットを作成するには、[イベントターゲット] タブで [イベントターゲットの追加] をクリックします。イベントターゲットタイプで [Kafka プロデューサ] を選択します。

次の表に、設定できる基本的なイベントターゲットプロパティを示します。

プロパティ	説明
名前	必須。Process Designer に表示されるイベントターゲットの名前。この名前は、この接続に一意である必要があります。
説明	オプション。Process Designer に表示される Kafka イベントターゲットの説明。

次の表に、設定できる Kafka イベントターゲットプロパティを示します。

イベントターゲットのプロパティ	説明
トピック	必須。メッセージの書き込み先となる Kafka トピックの名前。
グループ ID	必須。このフィールドは、将来使用するために予約されています。ただし必須フィールドであるため、このフィールドに値を入力する必要があります。Kafka コネクタは、入力された値を無視します。
コンテンツ形式	必須。メッセージを書き込む形式。 次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>- TEXT</li><li>- XML</li><li>- JSON</li></ul> デフォルトは [TEXT] です。
その他の属性	オプション。Kafka プロデューサ用の追加の Apache Camel 設定のプロパティのリスト。 プロパティは、キーと値のペアで指定します。複数のプロパティは、スペースを入れずにアンパサンド文字 (&) で区切ります。 例えば、次のフレーズを入力して、要求の最大サイズと、データの読み取り時に使用する TCP 受信バッファのサイズを指定します。 <code>maxRequestSize=1000000&amp;receiveBufferBytes=60000</code> [イベントターゲット] タブと [プロパティ] タブの両方でプロデューサ固有の接続プロパティを設定すると、[イベントターゲット] タブの接続プロパティが優先されます。 指定できるプロパティの詳細については、Apache Camel のドキュメントを参照してください。

# Kafka クライアントの Kerberos 認証の設定

必要な Kerberos 構成ファイルを Secure Agent マシンに配置し、Kafka 接続に必要な JAAS 設定を指定することで、Kafka クライアントの Kerberos 認証を設定できます。JAAS 設定により、Kafka ブローカが Kafka クライアントを認証するために使用する必要があるキータブとプリンシパルの詳細を定義します。

1. Kafka Kerberos 管理者から次のファイルを取得します。
  - kafka\_server.keytab
  - krb5.ini または krb5.conf
  - kafka\_jaas.conf
2. kafka\_server.keytab ファイルを Secure Agent マシンにコピーします。
3. 使用するオペレーティングシステムに基づいて、Secure Agent マシンで krb5.ini ファイルまたは krb5.conf ファイルを指定の場所にコピーします。

オペレーティングシステム	ファイルの場所
Windows	C:\\Windows\\krb5.ini
Linux	/etc/krb5.conf

4. ブローカと KDC サーバーのすべてのエントリを Kafka Kerberos 環境から Secure Agent マシンの hosts ファイルにコピーします。
5. Kafka 接続で次の手順を実行します。
  - a. Kerberos 化されたドメインにある Kafka ブローカのホスト名とポート番号を入力します。
  - b. **[SASL の使用]** フィールドで、値 **[はい]** を選択します。
  - c. **[SASL メカニズム]** フィールドに、値 **[GSSAPI]** を入力します。
  - d. **[Jaas 設定]** フィールドに、Kerberos キータブファイルと kafka\_jaas.conf ファイルのプリンシパルに関する詳細を次の例に示すように入力します。

```
com.sun.security.auth.module.Krb5LoginModule required useKeyTab=true storeKey=true keyTab="<path and file name of the keytab file on the Secure Agent machine>" serviceName="kafka" principal="<principal value from the kafka_jaas.conf file>";
```
6. Kafka 接続を保存してパブリッシュします。

## Kafka プロセスの作成

Kafka 接続、Kafka コンシューマ、Kafka プロデューサを作成すると、プロセスでこれらを使用できます。Kafka 接続、Kafka コンシューマプロセス、Kafka プロデューサプロセスは、同じ Secure Agent 上で実行する必要があります。

### Kafka コンシューマプロセス

Kafka コンシューマプロセスを作成するときは、次のガイドラインを使用してください。

- プロセスバインディングはイベントとして選択します。
- Kafka 接続で作成した Kafka コンシューマを選択します。

## Kafka プロデューサプロセス

Kafka プロデューサプロセスを作成するときは、次のガイドラインを使用してください。

- 割り当てステップを追加して、トピックに書き込む Kafka メッセージを準備します。
- サービスステップを追加して、Kafka プロデューサを選択します。入力フィールドで、割り当てステップで準備した Kafka メッセージを選択します。
- プロセスの実行後にレスポンス ID を受信する必要がある場合は、Kafka レスポンスを受信するように出力フィールドを設定できます。

Kafka メッセージの読み取りおよび書き込みに関するビデオを表示し、サンプルプロセスをダウンロードするには、次のコミュニティ記事を参照してください。

<https://knowledge.informatica.com/s/article/DOC-18233>

# 索引

## K

Kafka

概要 [5](#)

Kafka イベントソース

プロパティ [11](#)

概要 [11](#)

Kafka イベントターゲット

プロパティ [14](#)

概要 [14](#)

Kafka コネクタ

概要 [5](#)

実装 [5](#)

Kafka コンシューマ

作成 [11](#)

Kafka コンシューマプロセス

ガイドライン [15](#)

作成 [15](#)

Kafka プロデューサ

作成 [14](#)

Kafka プロデューサプロセス

ガイドライン [15](#)

作成 [15](#)

Kafka 接続

プロパティ [8](#)

概要 [6](#)

基本プロパティ [8](#)